

## 環境審議会の意見概要及び意見に対する考え方

## 1 環境基本計画

意見番号	意見の概要	対応状況
中間答申書		
1	・もったいない運動やネットワーク型コンパクトシティのまちづくり, LRT, 自転車などの交通未来都市としての取組など宇都宮市らしさを活かした計画とするべきと考える。	<b>■基本計画</b> 重点戦略として反映 重点戦略に分野を横断した宇都宮市の特色を活かした施策を新設 ≪基本計画：P 4 1～P 5 4≫
2	・分野横断的視点を持ちながら環境都市の実現に向けて, 特に効果が期待できる政策・施策については重点化するなど, 戦略性・実効性の高い計画をするべきと考える。	
3	・市民・事業者・行政がパートナーシップを通して環境課題の解決に取り組むためには共有できる環境都市の姿を明確にする必要がある。	<b>■宇都宮市が目指す環境都市へ反映</b> 新たに本市が目指す環境都市の姿(イメージ図)を新設 ≪基本計画：P 2 9～P 3 2≫
4	・超高齢時代等にも対応した更なる省エネルギー型のライフスタイルを推進することが重要である。	<b>■分野別施策へ反映</b> 「1-1-1 家庭における省エネ・低炭素化の促進」を実施する際の視点として意見を反映 ≪基本計画：P 5 8≫ ≪基本計画：P 3 6≫
5	・公共交通や低環境負荷型の乗り物を活用した移動手段の最適化による環境負荷の低減を検討していくことが重要である。	<b>■重点戦略へ反映</b> 「重点戦略④：グリーンな交通システムの構築」を新設 ≪基本計画：P 4 9≫
6	・地球温暖化の影響による異常気象や災害などのリスクに関する対応を検討していくべきと考える。	<b>■分野別施策へ反映</b> 「1-3-3 気候変動への適応に関する普及啓発」を新設 ≪基本計画：P 6 2≫ ≪基本計画：P 4 9≫
7	・次世代の環境・エネルギー関連技術を活かした地域産業など環境と経済が両立する施策を検討していくことが重要である。	<b>■重点戦略へ反映</b> 「重点戦略⑤：環境と経済の連携による地域の環境資源を活かした産業や取組の創出」に「環境技術を活用した産業創出に向けた取組の推進」を新設 ≪基本計画：P 5 1≫
8	・更なる廃棄物の削減や資源循環へと促すサイクル構築に向けた検討が必要と考える。	<b>■重点戦略へ反映</b> 「重点戦略⑤：環境と経済の連携による地域の環境資源を活かした産業や取組の創出」に「地域の資源を活用した新たな取組の推進」を新設 ≪基本計画：P 5 2≫
9	・資源の再利用化による地域活性化策の検討が重要である。	

10	・コンパクトシティ化と合わせた都市部と農村部の調和を図ることや都市の緑化，生物を含む既存の自然を守ることが重要である。	■重点戦略へ反映 「重点戦略③：自然と調和したコンパクトな地域づくり」に「生き物とともに生きる環境保全の推進」を新設 《基本計画：P 4 8》
11	・安全・安心な暮らしを確保するために水大気環境の保全に努めていくべきである。	■分野別施策へ反映 「環境分野4 生活環境」を実施する際の視点として意見を反映 《基本計画：P 7 4～P 7 8》
12	・市民や事業者と連携した人材育成や環境保全活動を促進するべきである。	■重点戦略へ反映 「重点戦略①：もったいないの精神で行動するひとづくり」を新設 《基本計画：P 4 4》
13	・宇都宮市の地域資源を活かした，宇都宮市らしい政策・施策を検討するべきである。	■重点戦略として反映 重点戦略に分野を横断した宇都宮市の特色を活かした施策を新設 《基本計画：P 4 1～P 5 4》
<b>第30回 環境審議会</b>		
14	・環境都市のイメージ図は，宇都宮市の都市骨格や都市計画，ネットワーク型コンパクトシティのまちづくりなどと整合をはかりながら作成を進めるべきである。	■宇都宮市が目指す環境都市へ反映 「環境都市の姿」に反映 《基本計画：P 2 9～P 3 2》
15	・山林，里山を守っていくためには，科学技術だけでなく，子どもたちからの意識啓発など，人づくりが大切である。	■重点戦略へ反映 「重点戦略①：もったいないの精神で行動するひとづくり」に「主体的な実践活動の支援」を新設 《基本計画：P 4 5》
16	・環境配慮行動をより広げていくためにも，家庭での環境教育や市民との協力に関する取組を強く出していく必要がある。	■重点戦略へ反映 「重点戦略①：もったいないの精神で行動するひとづくり」に「活動の充実を図る環境学習の推進」を新設 《基本計画：P 4 4》
17	・場所が無くては生きものは生きていけない。こうした点からも，環境行政だけでなく，農業・土木・河川等との連携を強化する必要がある。	■重点戦略へ反映 「重点戦略③：自然と調和したコンパクトな地域づくり」に「生き物と共に生きる環境保全の推進」を新設 《基本計画：P 4 8》
18	・中心となる高い理念を掲げ，それを目指す過程で市民に分かりやすい数値目標を設定するべきである。	■宇都宮市が目指す環境都市へ反映 環境都市の姿を新設 計画の成果指標に反映 《基本計画：P 2 5～P 3 2》
<b>第31回 環境審議会</b>		
19	・人づくりのためには，幼少の頃からの環境教育や人づくりといった取組が重要である。 ・教育部門との連携強化が必要と考える。	■重点戦略へ反映 「重点戦略①：もったいないの精神で行動する人づくり」に「教育機関と連携した環境教育の推進」を追加 《基本計画：P 4 4》

20	・環境行政の推進には、教育、福祉、まちづくり、経済分野等との庁内連携の強化が必要不可欠である。	■計画の進行管理体制へ反映 重点戦略推進プロジェクトチームを新設
21	・子ども達の環境学習に民間企業等の外部講師によるメニューを行っても良いと考える。	■分野別施策へ反映 「5-2-1 環境学習の場と機会の提供」を実施する際の視点として意見を反映 ≪基本計画：P 80≫ ≪ <b>実行</b> 計画：P 46～P 47≫
22	・里山などの、今ある緑をしっかりと保全していくための取組や数値目標が必要と考える。	■分野別施策へ反映 指標設定については、改定時などの指標見直しの際に参考とする。 取組については、「3-1 生物多様性の保全」及び「3-2 緑・水環境の保全と創出」を実施する際の視点として意見を反映 ≪基本計画：P 68～P 74≫ ≪ <b>実行</b> 計画：P 40～P 42≫
23	・環境都市のイメージ図は、ネットワーク型コンパクトシティの概念と併せてメリハリを強調した方が良い。 ・文化施設や歴史的施設など、住みやすいまちとしての印象をあたえるための要素を加えるべきである。	■宇都宮市が目指す環境都市へ反映 「環境都市の姿」に反映 ≪基本計画：P 29～P 32≫

## 2 地球温暖化対策実行計画

※ 環境基本計画に対する意見のうち、実行計画にも関連する内容は、基本計画と同等の内容で対応

意見番号	意見の概要	対応状況
<b>第31回 環境審議会</b>		
1	・温室効果ガス排出量に関して「1人当たりの排出量」や「1世帯当たりの排出量」といった似通った指標が設定されていると市民にとっては分かりにくいので、算出の考え方などもしっかりと見せていくべきと考える。	■資料編へ反映 資料編に詳しい解説を追加 ※作成中
2	・環境保全に寄与する機器に対し、経済的な支援策を講じる場合には、どれだけの支援を講じることで一定の普及が図られるかなど効果を検証した上で、制度を構築すべきである。	■分野別施策へ反映 「1-1 家庭における省エネ・低炭素化の促進」などを実施する際の視点として意見を反映 ≪ <b>実行</b> 計画：P 36≫